

京都市感染症週報

京都市感染症情報センター
(京都市衛生公害研究所)

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数は3例(第38週), 本年の累積報告数は52例となっています。第27週以降, 報告が継続しています。
- デング熱の報告が1例(第39週)で, 本年2例目となっています。年齢が12歳で, 推定感染地域は国外(インドネシア)です。全数報告対象となった平成11年4月から本年を含めた累積報告数(16例)を推定感染地域別にみると, すべて国外で, インドネシア(6例), タイ(4例)の順となっています。
- インフルエンザ患者の集団感染(クラスター)の報告は依然続いており, 京都市の第38週は75件, 第39週は32件あります。全国では第38週は4104件, 第39週は2991件あります。新型インフルエンザによる全国の入院患者数は, 9月23日～9月29日で152人となっており, そのうち基礎疾患を有する者等が55人, 急性脳症・人工呼吸器使用患者数が13人です。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は, 第38週が4.35, 第39週が3.54です。第39週はやや減少していますが, 7日のうち4日は, 祝日又は休日を含んでいることを考慮すると, 依然として高い値であると考えられます。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- 二類:結核 2例(第38週)(肺結核 1例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者1例), (喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 272例(肺結核 173例, 肺外結核 67例, 無症状病原体保有者 32例), (喀痰塗抹陽性 83例)】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 3例(第38週)【1月以降の累積報告数 52例】
- 四類:A型肝炎 1例(第39週)【1月以降の累積報告数 3例】
- 四類:デング熱 1例(第39週)【1月以降の累積報告数 2例】

インフルエンザ情報

- 集団感染(クラスター)報告件数の推移[暫定値]
- 全国の新型インフルエンザ(A/H1N1)による入院患者数

	第36週	第37週	第38週	第39週
京都市	58	62	75	32
全国	2308	3287	4104	2991

	第36週	第37週	第38週	第39週
患者数	108	102	152	152
うち,基礎疾患等を有する者	45	33	62	55

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	第39週		第38週	
		定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	3.54	241	4.35	296
小児科 (第39週の 降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.59	65	2.22	91
	② 水痘	0.29	12	0.07	3
	③ 突発性発しん	0.27	11	0.29	12
	④ ヘルパンギーナ	0.24	10	0.41	17
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.24	10	0.22	9
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4	0.70	7

病原体情報

(検体名は, 紙面の都合上, 鼻咽頭ぬぐい液をNP, 糞便をFC, 髄液をSF, 尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
血清型病原大腸菌(2)	感染性胃腸炎(第30週×2)	FC×2	肺炎球菌(9)	かぜ症候群(第28週, 第29週×2, 第30週×6)	NP×9
黄色ブドウ球菌(12)	かぜ症候群(第29週×3, 第30週×7, 第31週), 感染性胃腸炎(第29週)	NP×11 FC	インフルエンザ菌 b型以外(7)	かぜ症候群(第29週×2, 第30週×4, 第31週)	NP×7
A群溶血性レンサ球菌(2)	かぜ症候群(第28週, 第29週)	NP×2	マイコプラズマ・ ニューモニエ(1)	かぜ症候群(第30週)	NP

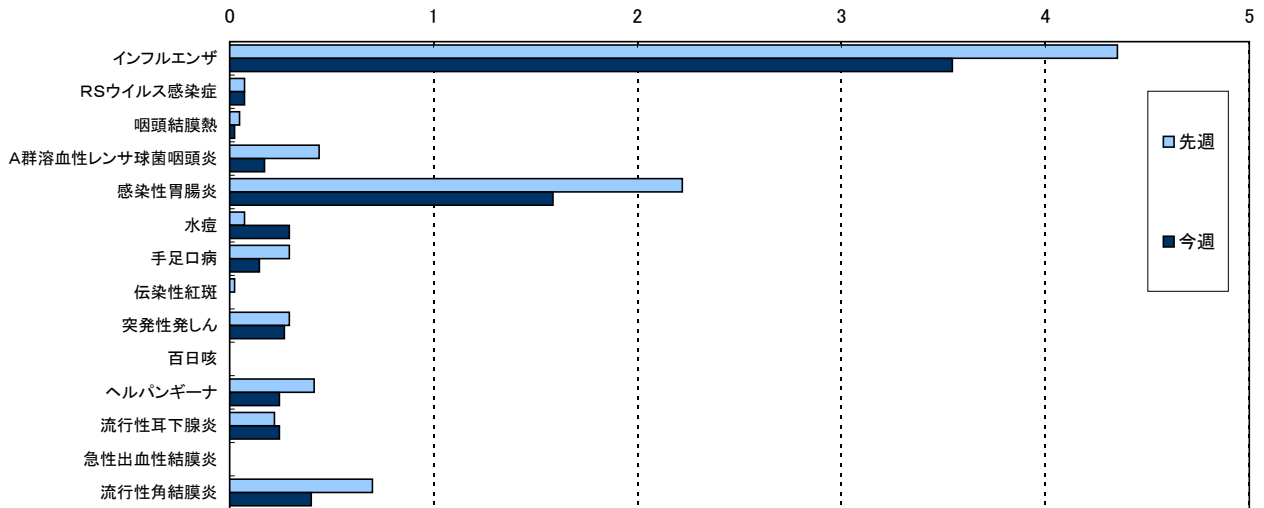
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

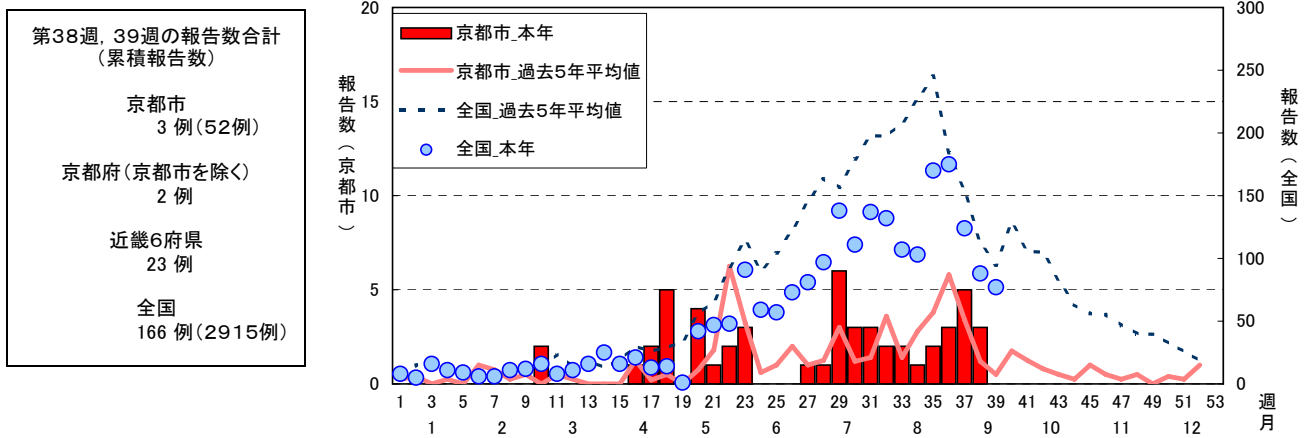
(注) 京都市のデータは, 平成21年10月1日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在の保健所での集計で, 患者の住所を示すものではありません。病原体情報は, 病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第39週)と先週(第38週)の定点当たり報告数の比較



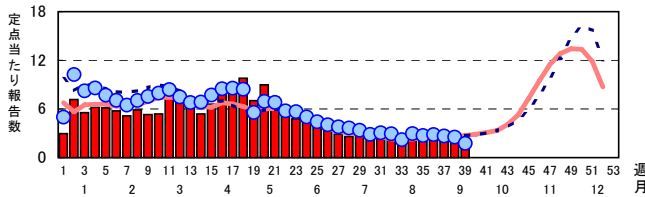
2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



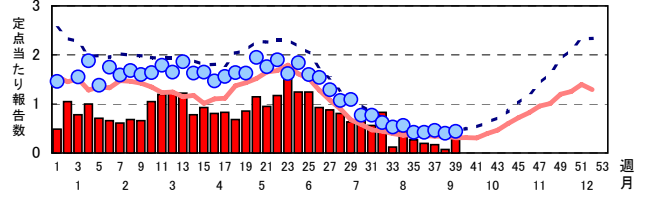
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

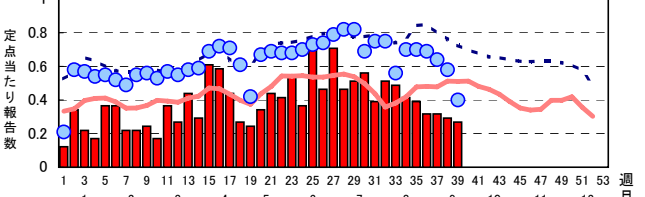
1 感染性胃腸炎



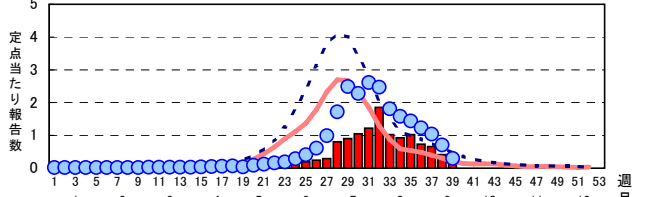
2 水痘



3 突発性発しん

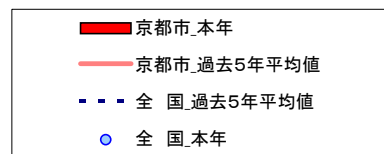
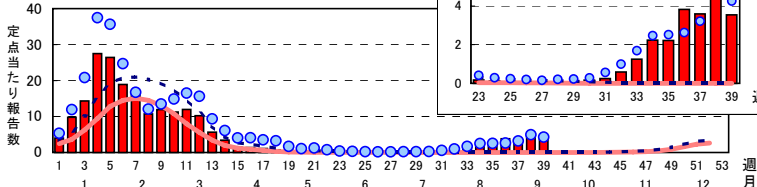


4 ヘルパンギーナ



<インフルエンザ定点>

インフルエンザ



合併号(9月14日～9月27日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、第38週が4.35、第39週が3.54です。第39週はやや減少していますが、7日のうち4日は、祝日又は休日を含んでいることを考慮すると、依然として高い値であると考えられます。

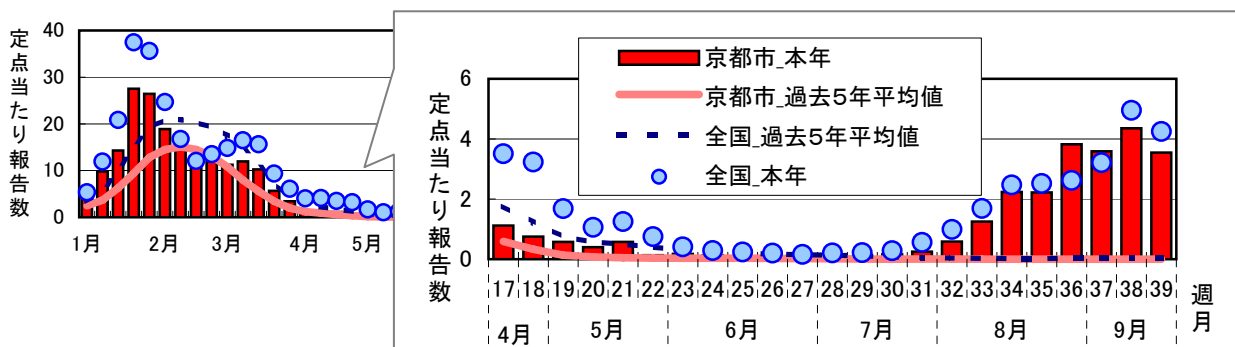
行政区別定点当たり報告数をみると、第39週では、2行政区で注意報の基準値(10)を超えています。

なお、近畿の注意報基準値(10)を超えた保健所数は、第38週は17箇所、第39週は16箇所となっています。年齢階級別にみると、第38週、第39週ともに「10～14歳」で最も多く、次いで第38週では「5～9歳」が、第39週では「15～19歳」が多くなっています。

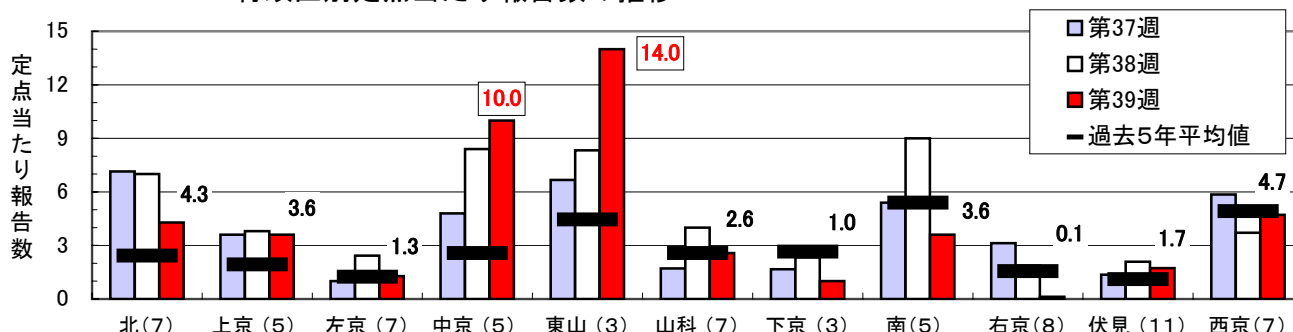
また、第39週には新型インフルエンザによる急性脳炎が2例(2歳、6歳)報告されており、ともに快方に向かっているものの、特に乳幼児等、重篤化するリスクが高い方々は、注意が必要です。

第38週、第39週に京都市衛生公害研究所で遺伝子検査によりインフルエンザA型陽性となった33例の内訳は、新型インフルエンザ(A/H1N1)[AH1pdm]が32例、H亜型判定不能例が1例です。

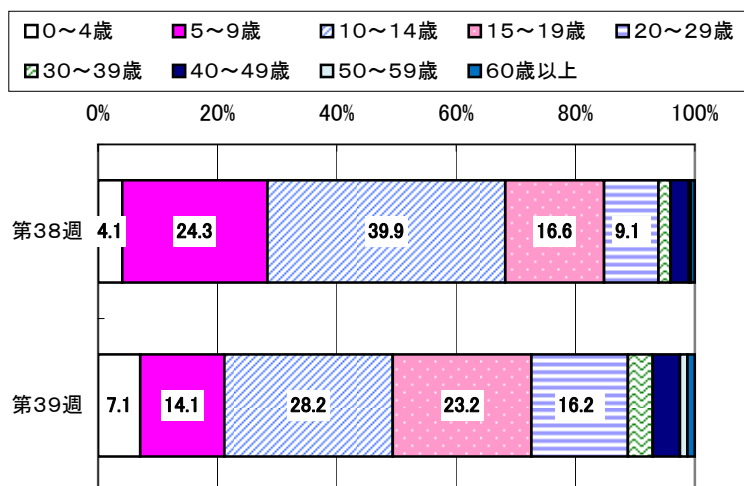
本市及び全国の定点当たり報告数 推移



行政区別定点当たり報告数の推移



年齢階級別構成割合の推移



近畿で定点当たり報告数が10を超えた保健所

第39週			第38週			
滋賀	大津市	22.1	滋賀	大津市	13.0	
	高島	10.7		大阪	大阪市都島	13.3
京都	中京	10.0	大阪市西		55.4	
	東山	14.0	大阪市大正		24.3	
	山城南	11.0	大阪市東淀川		12.8	
	大阪	大阪市西	88.8		大阪市旭	29.6
大阪	大阪市東淀川	15.3	大阪市東住吉		15.7	
	大阪市旭	56.6	大阪市住之江		12.0	
	枚方	20.1	大阪市北		10.0	
	藤井寺	20.1	豊中		11.1	
	富田林	11.9	吹田		10.3	
	岸和田	16.0	枚方		12.4	
	兵庫	加東	15.5		藤井寺	24.0
		福崎	16.0		富田林	14.6
		朝来	18.0		兵庫	西宮市
	和歌山	岩出	13.7		伊丹	12.5
			和歌山		岩出	14.8